

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	久留米市高良内町3919-5		
自己評価作成日	平成23年3月5日	評価結果確定日	平成23年4月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様は、近隣で、提携医のつむら診療所の津村先生とホームとの連携により、健康管理面では、安心して過ごす事ができます。又、市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます、季節によっては、野菜作りもできます。食事は、季節の野菜を取り入れ家庭的な味付けを心懸け、要望(リクエスト)にも添えるように柔軟に対応しております。スタッフも人生経験豊富な年配の方(60代)が多く家庭的な雰囲気笑顔で共にゆっくりとした時間を過ごしています。月1回開くスタッフ勉強会では利用者さまに添うコミュニケーションの方法について繰り返し勉強しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公園に隣接し、近隣には複数の高齢者福祉施設がある等、連携の取れる社会資源に恵まれている。運営面では、「倫理」という切り口から人権や接遇面等についてサービスの質の向上を図っており、室内には職員に意識付けを促す掲示が多く見られる。職員アンケートを定期的実施し、業務に対する意見や提案を運営に反映する仕組みが作られており、忌憚らない意見や率直な提案が多数寄せられ、開かれた職場であることがうかがえる。市内の同業者間との学習会や意見交換の場も多く、研修の機会として、積極的に活用している。また協力医療機関の医師とも日頃から良好な連携が取れており、緊急時にも備えている。日常生活では、入居者の好みやリクエストに応じて、旬の食材を活かしながら、日々、一人ひとりの好みと状態に応じた配慮と工夫を凝らした調理を行っている。余暇については、一人ひとりの希望をもとに、ショッピングモールへの買物や、外食、カラオケ、弁当持参で季節のドライブに出かける等の支援を行なっている。職員各自の仕事に対する真摯な姿勢と、それを活かした運営を実践する管理者・代表者の両輪が、入居者一人ひとりの豊かな暮らしの実現を目指す今後の展開が楽しみな事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月19日		

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私達の使命」を毎日朝礼時に、全員で唱和し、仕事に取り組む姿勢を日々確認している	設立時に作成された独自の理念と、方針、「私達の使命」を、毎朝礼時に全員で唱和し、共有に努めている。その際、管理者が、内容に関するコメントを付け加え、理解の深まりと確認を図っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域敬老会の参加、散歩時、隣接する公園や地区の共同菜園を利用する方々と交流がある、近所にあるスーパーへ買物に出かけている	日常的に散歩や、スーパーを利用する中で、挨拶や日常会話等、住民との交流機会がある。また敬老会等の行事やボランティア活動に参加したり、中学校の職場体験学習を受け入れたりを行なっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、民生委員さんに事業所の取り組みをお知らせしている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告として、サービスの様子を伝えたり、外部評価後は、評価結果を配り、意見を聴いている	市福祉課や包括支援センター職員、民生委員、家族の参加で、2ヶ月に1回開催されている。利用者の状態や、行事、研修、ヒヤリハット報告等がなされている。議事録からは、質疑応答等、丁寧に行なっている様子が確認出来る。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、疑問点などは、積極的に相談して、協力を受けている	日常的に問い合わせや相談出来る顔の見える関係作りがなされている。特に地域包括支援センターとは、入居者や家族からの相談について、電話や訪問により相談を行う等、ケースに応じて連携が図られている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会でとりあげ、職員の認識を深める努力をしている、やむおえない状況がある場合には、アセスメントを十分に行い、家族に意見をきき、経過報告を密に行っている	身体拘束については、勉強会を実施し、禁止の対象となる行為や、身体拘束が与える影響(弊害)等について、職員間で理解を深め、共有出来るよう努めている。現在、対象者はいない。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において、管理者、職員とも認識を深め、十分に注意を払っている、見過ごす事がないように気をつけている	

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会において、又は、資料回覧などで管理者、職員とも認識を深め、個々の必要性がある時には、対応できるように準備している	以前、日常生活自立支援事業活用者がおり、現在は、成年後見制度利用者がいる。その為、職員は、制度の必要性を理解しており、勉強会や閲覧資料を通して、更なる制度理解に努めている。玄関にも説明資料を備え付けている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、担当者がゆっくり丁寧に説明して理解、納得を図っている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、介護相談員さんに来てもらい、利用者が苦情、相談を伝える事ができる機会を設けている、家族の方にも、来訪日を玄関に掲示して、苦情相談は伝えてもらい、運営の為に役立てている	毎月、介護相談員の来訪があり、利用者への周知、活用に努めながら、外部へ意見や要望を表せる機会を設けている。また家族には、毎月、請求時に職員が手紙を送り、一人ひとりの様子を伝え、コミュニケーションを図りながら、意見や要望の出し易い雰囲気作りにも努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見があれば話し合いをしている、ユニットリーダーを通じて意見や提案を出しやすい環境を作っている、年に数回アンケート、又は、自己評価表を記入してもらいその中で提案などを参考している	日常的な意見交換や毎月の勉強会の他、年に数回、アンケートを実施し、業務の改善点や意見を吸い上げるよう努めている。実際のアンケート結果から、ストレートな表現で、率直に意見や要望、提案を述べていることが確認出来る。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを記入し、各自目標を掲げている、給与水準も勤続年数だけでなく、個々の努力などを把握して査定している、労働日数なども個々の希望を反映できるようにしている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、人柄ややる気を重視しており、年齢や性別による差別は行わないようにしている、職員は働くなかで、得意分野を後輩に伝授するなど、個々がいきいきと働けるように又、職員間の良い関係が生まれるよう配慮している	職員の募集・採用にあたり、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に幅広い年齢層の職員が勤務している。業務の中で、職員各自の得意分野が發揮出来たり、年数回実施するアンケートで、仕事に対する意見や提案が出来る機会を設け、働きやすい職場作りに努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会で、人権に関する勉強を取り上げている、利用者様を尊重する姿勢については、運営理念を毎日唱和する時にも確認している	事業所は倫理法人会に所属し、『職場の教養』という倫理読本をテキストに、「倫理」という切り口から、人権教育、啓発に努めている。また室内には、倫理規定の掲示も見られる。	

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会、久留米市介護福祉サービス事業者協議会、県社協が主催する研修会に参加できるよう努力している、研修に行けなかったスタッフには資料を回覧し感想を書いてもらい勉強できるようにしている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着型サービス生活圏域事業所交流会に参加し他グループホーム職員と交流する機会がある		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ずこちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望に耳を傾けている、そうする事で少しでも不安が軽減できるよう配慮している、		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としては、本当にご本人にとってグループホーム支援が一番いいのかを念頭に置いてご家族ともお話するよう、心掛けている。利用者様、ご家族の立場に添って客観的に他のサービス利用手段もある事もお伝えしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さまと一緒に仕事をしたり、外気浴、外出、散歩をしたりする中で喜怒哀楽を共にしている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、その都度、ケアの面で相談したり、協力をお願いしたりしている又ホームは本人と家族の橋渡しの役割をしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くのお店と一緒にいたり、実際自宅まで一緒にいくなど、可能な場合は、支援している	自宅や馴染みの店、以前利用していた施設、病院を訪れたりしている。また家族に依頼し、行きつけの美容室を利用したり、墓参りに行く等の支援を行なっている。	

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、特定の人が孤立する事がないよう支援している、仲間づくりには十分配慮している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先の病院や、退所後の施設に面会に出かけたり、相談員さんや、家族の方に経過を伺ったりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向について、入所前に十分にアセスメントしている入所後もその都度希望を聴くようにしている	普段の暮らしの場面で、日常的に希望を尋ね、思いを表わし易い雰囲気作りを行うとともに、何気ない会話やしぐさの中から、潜在化している思いや意向の把握に努めている。アセスメントツールについては、センター方式を始め、様々な様式を試みている。生活歴の記載も見られ、困難な場合について、本人本位の検討に努めていることがうかがえる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、必ずこちらから出向き入所前の生活環境を確認しているサービス利用の経過なども前利用事業所に確認し情報提供をお願いしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り簿において、情報を皆で共有している、出来る事、できない事についてもアセスメント表にて現状把握している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、看護師、ケアマネ、主治医を交えての話し合いや相談、家族の面会時に意向を確認し、介護計画を作っている	アセスメントや家族情報をもとに、担当職員、医師、看護師、その他関係者の話し合いによって、作成している。見直しについては、3ヶ月ごとに実施している。	日々の記録に重複した部分が多く見られ、見直しの際の状態把握をより効果的に行なうという観点から、情報の整理が必要と思われる。また援助目標(長期・短期)についても、達成度や状態把握がより明確となるよう具体的内容での設定を期待したい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況に応じて確認が必要な事柄が生じた時に、皆でチェックシートや実践表に記入している、介護計画の見直し時にそれらの記録を活用している		

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気晴らしの支援などには、ボランティア団体の活動に登録して、利用したり、近くのデイサービスでイベントがある時は、参加している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	タウンモビリティという地域のボランティア活動への参加などを行っている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段は、提携医のつむら先生にほとんど診てもらっているが、専門医を受診している人も、他病院を受診する場合も、紹介先の病院の希望を家族にきいて、つむら先生に紹介状をお願いし、さらに連携をはかっている	かかりつけ医については、入居者や家族の意向を尊重している。協力医も非常に熱心であり、毎週の往診や緊急時の対応、専門医への紹介等、良好な協力関係のもと緊密な連携が図られている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、関わるなかで、変化や気づきはその都度看護師に伝え、必要時医師との連携をとっている、対応は迅速にできている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通じて連絡をもらい、病院の連携室と連絡をとるようにしている、必要時は出向いてカンファレンスに参加している		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話を一度はする事にしている、その後必要時に医師から話し合いの時期についてサインをもらったらご家族と看護師と管理者、ケアマネジャーで今後の方針について相談しあっている	契約時に詳しい指針をもとに説明を行い、本人・家族の意向確認を行なっている。その後は、状態変化に応じて、医師が説明を行い、相談し合い、方針を共有しながら支援を行なっている。実際に看取り事例は数例ある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応法について、勉強会でも取り上げ皆が周知するようにしているが、職員全員が実践力を身につけるよう今後、シミュレーションなどを行い勉強していきたい		

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会を行っているが、昼、夜を想定した訓練を行う必要がある	消火・避難訓練と、消防設備点検を各1回実施している。運営推進会議で、地域への働きかけを行なっているが実現には至っていない。防災については、勉強会の実施や、緊急時対応・連絡先を掲示することで、職員間で周知徹底に努めている。	消防署の立会いや、夜間想定訓練の実施を期待したい。また地域の消防団や近隣福祉施設との連携を模索しており、合同訓練の実施等、地域資源の活用の検討を期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る対応、プライバシーを損ねない対応について勉強会だけでなく、日頃のミーティングでもお互い注意しあうようにしている	月1回の勉強会だけでなく、日頃から、一人ひとりの意向、好みを尊重し、プライバシーの確保に努めている。言葉掛けにも配慮を行なっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さまに、希望を言ってもらえる信頼関係づくりを大事にしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴や散歩など、希望をききながら支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着は、本人に服を選んでいただけるよう支援したり、理容については2ヶ月に一度訪問理容にきてもらっている。希望を伝えカットしてもらっている、家族支援のもと、いきつけの美容室に行かれる方もいる		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望や力に合わせて、できる事をスタッフと準備したり、片付けをししたりしている	献立は、入居者の好みやリクエストに応じて、旬の食材を活かしながら職員が作成している。ユニットごとに異なる。準備や片付けについては、入居者の出来る範囲で役割を担っている。食事も職員同席で同じ物を食している。時に入居者の要望を受け、外食も行なっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量については、医師と相談してできる範囲で個別に対応している		

福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、訪問歯科の先生達から、個々について指導をうけ毎食後行っている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は、オムツ対応している方についても、昼間は可能な限り、トイレでの排泄支援をしている、声かけ誘導により、自立を促すようにもしている	一人ひとりの状態やパターンを把握し、その人に合った支援を行なっている。夜間は睡眠を優先し、オムツ使用しているが、日中は、声掛けにより、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、飲食物や水分摂取量などに注意を払っている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は事業所側で決めている、順番などについては、公平になるようにし、入浴剤などで楽しめるようにしている	基本的に週2回、夏は週2回にシャワー浴を1回実施している。入浴剤等を使い、楽しめるように努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により、休息、睡眠がとれるようにしている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が理解しているとはいえないが、服薬後の症状の変化などについては、注意を払い、その都度看護師、医師に報告している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じ、洗濯物量、食器片付けなどを一緒に行う、又買い物、散歩などして、気晴らしの支援をしている		



福岡県 グループホーム コスモピア高良内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	散歩や、買い物など希望を聞いて一緒にできている	隣接する公園の散歩や、買物等、日常的に戸外に出掛ける機会を持っている。また一人ひとりの希望をもとに、ショッピングモールへの買物や、カラオケ、弁当持参で季節のドライブに出かける等の支援を行なっている。	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	お財布をもたれたり、お小遣いを預かるなどして、不自由さを少しでも感じられる事がないよう支援している		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話をして、時々家族と会話されている方もいる		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	さりげなくホーム内に、季節感が味わえるような飾りつけをしたり、季節の花を飾ったりしている、落ち着いて過ごしていただけるような空間づくりをこころがけている	室内は広く、採光良く明るい。季節の花や、入居者と職員と一緒に手作りした作品が飾られ、彩りを与えている。対面式の台所からは、調理の様子が五感を刺激し、生活感がある。	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者の希望に添った空間作りを心懸けている、一人である事を望まれる方にもさりげなく見守りを行い孤独感が感じられない様に配慮している		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室の家具類は自宅から持ってきてもらい、壁には、家族写真などを飾って居心地よい居室となっている	各居室には、一人ひとりの使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれており、本人本位の居室作りに努めていることがうかがえる。	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	バリアフリーになっている、安全に生活できるよう工夫されている		